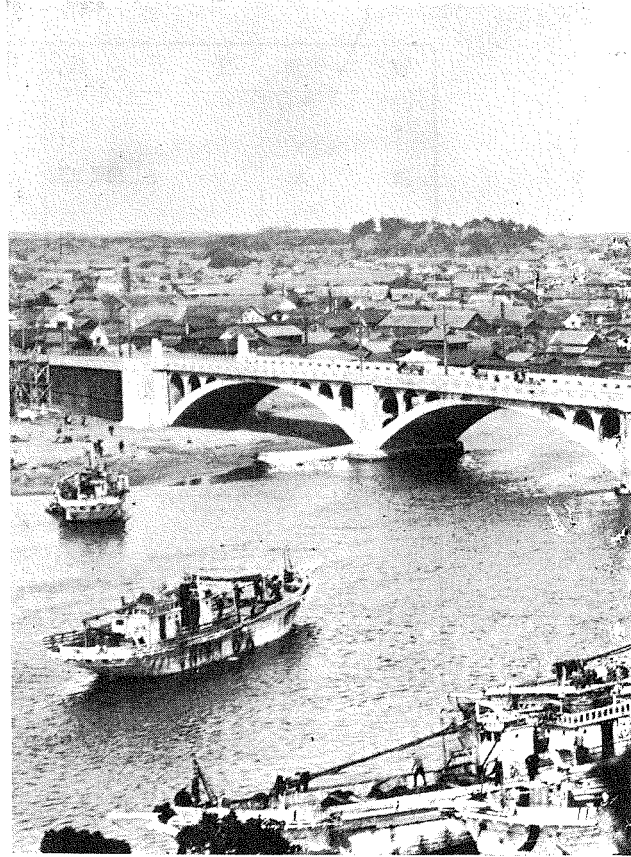


那珂湊漁港修築工事

茨城縣
長縣
横山
橋



(1) 那珂川右岸の高所より見
りしかば、港湾修築の必要を認め、之が計畫
に當りては慎重調査の必要上港湾協會に委囑
し、調査研究の結果成案を得たるを以て事業
費總額 2,000,000圓、自昭和八年度至昭和十
四年度七ヶ年繼續事業として、農林省より二
分の一の國庫補助を受け、昭和八年十二月十
五日其工を起し目下工事中なり。今其の計畫
大要を述べれば次の如し。

本計畫是那珂河口を改修して水流を一定せ
しめて航路とし、漁船の出入を安全且つ容易
ならしめ、那珂川の利用を充分ならしめ、且
つ其左岸砂地を掘鑿して船溜となし、其周圍
を埋築し以て漁港施設をなすものなり。

航路是那珂川河口左岸寄りに設定し、有效
幅員70米水深干潮面下4米5に浚渫し、左岸に
築造する岸壁、護岸及び導流堤等の築設物に

那珂湊港は本縣那珂湊町にあり、本縣海岸
線157杆の略中央那珂川の河口に位し、隣接磯
濱町平磯町と共に三濱の稱あり。本邦東海道
に於ける屈指の漁業地なり。

本港は其の起源古く應永年間既に市街の状
をなし、徳川時代に至り水戸藩の經營開發に
より物資の集散極めて盛となり、東海岸有數
の要津として殷勢を極め、當時三陸地方の諸
船は必ず本港に投錨せり。今尙人口に膾炙さ
れたる「三十五反の帆を巻き揚げて行くよ仙
臺石ノ巻」といふ俚諺磯節の一節は即ち當時
の繁榮を髣髴たらしめるものあり。

爾來幾星霜幾多の變遷を経て今日に至り、
時代の進運に伴ひ町勢次第に發展し漁業も年
と共に發展せり。那珂川は水深大にして天然
の船溜をなすと雖も河口附近波荒く且つ砂洲
の移動水深の變化著しく漁船の出入に適せざ



たる那珂湊港全景。(橋梁は海門橋)

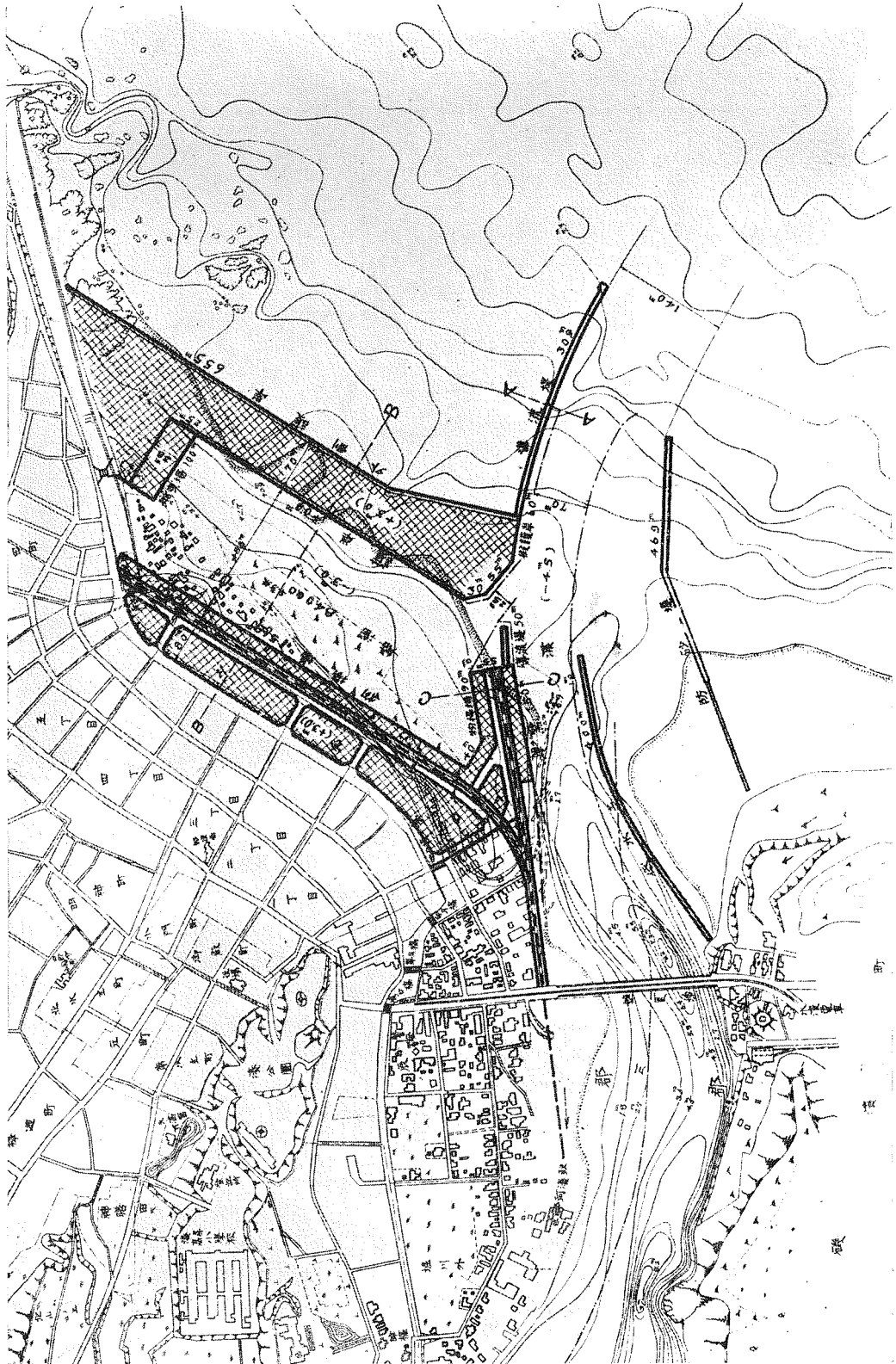
より、河川の水流通及び落潮を利用して其の水
深を維持せしめ、150噸級大型漁船の出入を可
能ならしめ、且つ接岸荷役の用に供す。尙水
深維持を確實ならしむる爲め右岸に低水工及
び防砂堤を築造す。

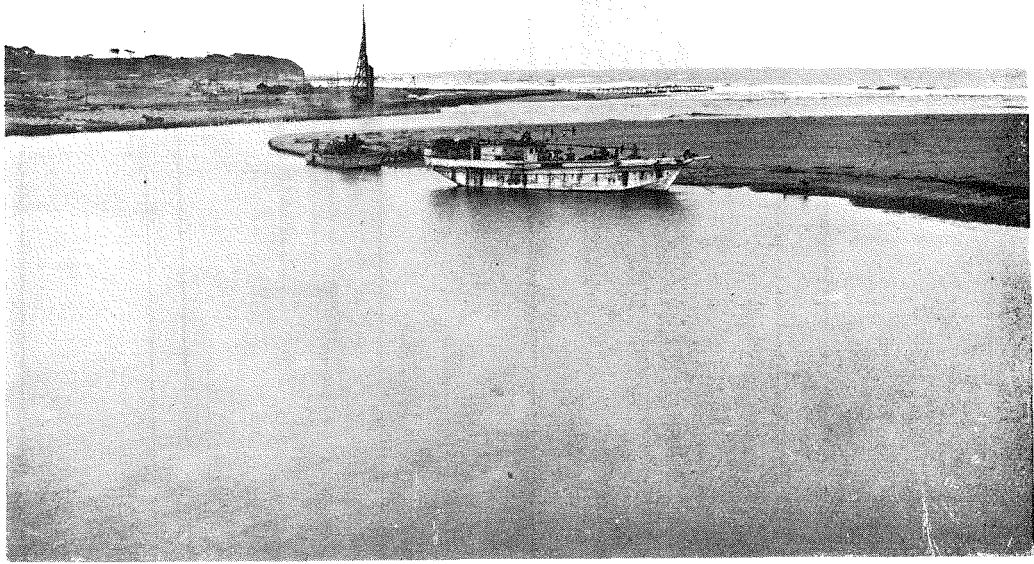
船溜は那珂川左岸砂地を掘鑿し幅員180米、
長515米、面積 84,000平方米、水深干潮面下
3米にして100噸型以下の一般漁船800隻餘を
收容し得るものとし、其周圍に物揚場船曳場
等を設け漁業の用に供す。

尙本計畫に於て施行する構造物の主なるも
の次の如し。

導流堤	ニヶ所延長	359米	
	捨石及捨方塊基礎	方塊積混成堤	
防砂堤	一ヶ所延長	469米	同
低水工	一	400	〃 杭打工

外側護岸	一	〃	655	〃	捨石及捨方塊基礎	混凝土造
船溜護岸	三	〃	554	〃	長7.3米鐵筋混凝土	矢板工及び捨石及捨方塊基礎
假護岸	一	〃	60	〃	方塊積	
岸壁	一	〃	150	〃	長12.0米ラルゼンIVA型	鋼矢板工
物揚場	一	〃	645	〃	長7.3米鐵筋混凝土	矢板工
船曳場	一	〃	100	〃	總幅38.0米	混凝土張
浚泄	總面積	143,188	平方米		總土量	718,741立米
埋立	總面積	122,062	平方米			





(2) 海門橋右岸橋臺上より見たる那珂湊港。

	總土量	248,717立米
道 路	延 長	1,075米
	幅 員	10米及5米
	面 積	21,730平米
上 屋	面 積	1,200平方米
鐵 道	港灣所屬延長	1,090米
	複線布設の見込み	
雜 工 事	暗渠延長	147米
	橋渠一ヶ所	
	港燈三基其他	

【導流堤】 河口改修の爲施行する左岸築設物の海門橋左岸橋臺より下流 265米の地點に起り、陸岸又は埋立地に接する場所には岸壁又は護岸を施し、其の然らざる場所には導流堤を築造し、其の先端は水深干潮面下 6.5 米の個所に達せしむ。導流堤は岸壁護岸等の構造物と共に相連なり、半徑1000米の弧形に彎曲せしめ流路を一定せしめ航路水深の維持を全からしむるものにして、漁船溜入口の部分を含し總延長 649米を有し、内導流堤と稱する

は合計延長 359米にして、第一號導流堤延長 50米は漁船溜入口に設置し、第二號導流堤延長 309米は航路護岸の一角より起り海中に突出し彎曲して略南東方に向ひ、水深干潮面下 6.5 米の地點に達す。

導流堤の構造は第一號・第二號共に捨石及混凝土方塊を基礎とし、其の上に混凝土方塊積を築造し、上部に場所詰混凝土を施工するものなり。而して第一號導流堤は堤體幅中段に於て4.0米、天端に於て3.5米、第二號導流堤幹部は堤體幅中段に於て 6.0米、天端に於て5.5米、同頭部堤體幅は中段に於て8.0米、天端に於て 7.0米とし、天端高は幹部は總て干潮面上3.0米頭部は3.5米とせり。

【防砂堤】 防砂堤は河口右岸祝町地先より略東方に向ひ、延長 469米を有する屈折堤を築造するものにして、河口右岸砂洲を固定し、河口水路をして該砂洲より受くる壓迫を免れしむ。防砂堤の先端は水深干潮面下 4.5米の

個所に達し、導流堤との間に 140米の間隔を有せしめ、以て港口となし且つ那珂川として必要なる河口幅を有せしむ。

防砂堤は其の地盤の状況に應じ構造を異にせり、即ち現在砂洲上は捨石基礎上天端1.5米の混凝土張堤體を築造し、天端高は地盤の高低に應じ干潮面上4.0米乃至2.5米とし、波打際附近は捨石及小型方塊を基礎とし、天端幅3.0米の場所詰混凝土造の堤體を築造し、天端高は干潮面上 2.5米とす。又海中部分は導流堤同様捨石及混凝土方塊を基礎とし、其の上に幅5.0米の混凝土方塊積堤體を築造し、上部に幅4.5米の場所詰混凝土を施工するものにして、其の天端高は干潮面上幹部は 2.5米、頭部は3.0米とせり。

【低水工事】 低水工事は海門橋右岸視町側橋臺下より起り延長 400米を有し、中央部は半徑 450米の弧形に彎曲し、先端附近は航路を夾みて左岸の岸壁に對峙し、海門橋附近右岸の深みより流下する流路を安定せしめ、航路の水深を維持せしむるものにして、其の構造

は横間隔1.0米、縦間隔0.9米四列の杭打工とす。

【浚渫及埋立】 浚渫は河口航路面積54,806平方メートルを干潮面下 4.5米に、漁船溜及同入口面積88,382平方メートルを干潮面下3.0米に浚渫す。即ち總面積 143,188平方メートルにして、之より生ずる土量は718,731立方メートルなり、内248,717立方メートルは漁船溜周圍の埋立に使用し、殘餘は適當の箇所に取捨つるものとす。

埋立は市街地と漁船溜との間を萬右衛門運河をも併せ幅80米に、又其の南部に接續し那珂川と漁船溜との間を幅55米に埠頭形に埋立て、漁船溜と海面及萬右衛門運河下流對岸との間を最小幅70米に埋築するものにして、其の高は總て干潮面上3.0米、即ち滿潮面上1.5米とす、之に要する土量248,717立方メートルは浚渫土砂を利用す。

埋立地は市街地に接續する部分の面積57,776平方メートル(17,477坪)と漁船溜對岸海寄面積64,286平方メートル(19,447坪)合計面積122,062平方メートル(36,924坪)を有し、其の内護岸・岸壁・物揚

(3) 北方より見たる那珂湊漁港外側護岸の一部。



場・船曳場・道路・鐵道・溝渠諸般の工事又は施設に要する敷地56,267平方米(17,021坪)を控除し、其の殘餘面積65,795平方米(19,903坪)は網干場・魚類製造品干場・其の他漁業に必要な諸設備の敷地に充つる見込なり。

【護岸】埋立地の周圍に築造する護岸に五種あり。

漁船溜護岸第一號は埠頭形埋立地先端部長55米の内、岸壁鋼矢板袖折屈げの長を除きたる延長44.6米にして、其の構造は長7.3米の鐵筋混凝土矢板護岸とし、尙其の上に高1米の混凝土擁壁を設け、其の天端を埋立面と同様とす。

漁船溜護岸第二號は漁船溜對岸に築設し、其の延長は船曳場側面を合して425米あり。其の構造は捨石を基礎とし、滿潮面迄高2.5米の混凝土方塊積護岸を築き幅2.25米の小段を設け尙埋立面迄高1.5米の混凝土擁壁を築造するものにして多數小船の繫留の用に供せし

む、而して前面は干潮面下1米とす。

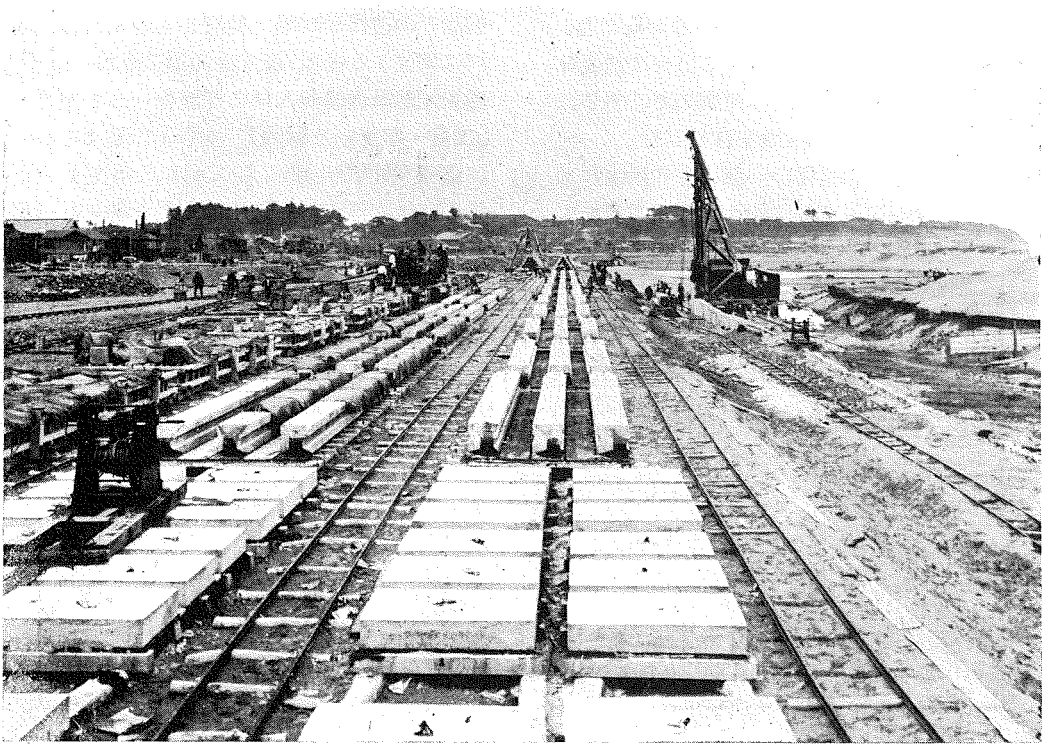
漁船溜護岸第三號は對岸埋立地の南端漁船溜入口に面する部分に設置し、其の延長85米なり、其の構造は干潮面下3.0米迄捨石を施工して基礎とし、其の上に混凝土方塊積擁壁を築造するものとす。

假護岸は前記護岸に接續し、那珂川に面する部分延長60米にして、其の構造は全く前記と同様とす。而して假護岸は將來必要の場合水深4.5米又は夫れ以上の岸壁に改造し、大型船の接岸荷役に便せしめ得る見込なり。

外側護岸は延長655米を有し、對岸埋立地の海側を保護するものにして、相當大なる波浪に曝露するを以て、法勾配四割に捨石を爲し、其の上に混凝土方塊を以て根固めと爲し、場所詰混凝土壁を築造し、上部に高1.0米の波返しを附す。尙越波の爲埋立地の洗掘せらるるを防ぐ爲幅3米を混凝土を以て鋪装することとせり。

(4) 岸壁鋼矢板打込作業・ラルゼンIV型、長12米。





(5) ウォータージェットによる物揚鉄筋コンクリート矢板打作業、左方は同矢板製造工場。

【岸壁】 漁船溜南側に於ける幅55米の埋立地の川側には延長150米、水深4.5米の岸壁を築造し、150噸内外の大型漁船三隻の接岸荷役に當つるものとす。其の構造は長12米の鋼矢板壁にして、其の天端高を干潮面上3.0米とす、其の斜面總幅員 18米、勾配20分の1總て混凝土張とし、最後部に幅 2.0米の水平部分を設け、埋立面より75糎高くし直ちに鐵道に接せしめ、魚貨の積込に便ならしむ。尙岸壁上流部は輕易なる取付護岸を施行して河岸を保護し、且つ將來必要に應じ岸壁を擴張し得る餘地を存せしむ。

【物揚物】 漁船溜西側延長 515米、南側延長130米計延長645米には前面水深干潮面下 3.0米の物揚場を築造し、主として 100噸型以下の漁船の魚揚及出漁準備の用に供す。今平均50噸の漁船を繫留するものとすれば、約20隻を同時に接岸することを得べく、將來の増加發展に對して充分なる延長を有せしめたり。

而して其の構造は長 7.3米の鐵筋混凝土矢板打工にして、天端高は干潮面上2.0米とせり。又同所斜面は勾配10分の1とし、岸壁の斜面と同様、總幅員を18米とし混凝土張とす。尙最後部には幅 2.0米の水平部を設け、埋立面より50糎高くし、鐵道又は道路に接せしめ魚貨の積出しに便ならしむ。

【船曳場】 船曳場は漁船溜の北側に於て延長100米のものを築造し、漁船の曳揚及修理の用に供す。其の總幅を38米とし、下部8米は勾配4分の1、上部30米は勾配10分の1とし總て混凝土方塊張及栗石交り混凝土張とす。

【陸上設備】 鐵道は漁船溜南側埋立地岸壁と物揚場との中央西側物揚場背面に沿ひて敷設す尙臨港鐵道は那珂湊驛より那珂川左岸に出で、川に沿ふて下り海門橋取付道路を貫通し漁港構内は達する見込なり。

道路は前記鐵道に併行して岸壁及物揚場に接するものと之等と市街地とを聯絡するもの

とを合し、重要道路延長約1,075米を施工し、其の總幅を10米とし、重要な箇所は舗装を施工す。尙埋立地各部には將來必要に應じ、幅10米又は5米の道路敷地を存せしむ。

上屋は岸壁及物揚場の一部に長40米幅15米のもの二棟を建設す。其面積1,200平方米とす
【雑工事】 雑工事は現在の萬右衛門運河と漁

船溜との連絡用暗渠・船溜北部現萬右衛門運河に架設する橋梁・導流堤頭部に港燈一基・防砂堤頭部及漁船溜入口に桿燈各一基を築造す
【工費・年度割及財源】 本事業に要する經費は總額2,000,000圓にして昭和八年度より同十四年度に至る七ヶ年繼續事業とす。其の支出年割及財源左の如し。

年 度 割	支 出 額	財 源		
		國庫補助金	縣 債	寄 附 金
昭 和 八 年 度	60,000	30,000	20,000	10,000
同 九 年 度	340,000	60,000	240,000	40,000
同 十 年 度	340,000	80,000	220,000	40,000
同 十 一 年 度	340,000	80,000	220,000	40,000
同 十 二 年 度	340,000	200,000	100,000	40,000
同 十 三 年 度	330,000	300,000	—	30,000
同 十 四 年 度	250,000	250,000	—	—
計	2,000,000	1,000,000	1,000,000	200,000

備 考 寄附金は地元淡町の寄附とす。

(6) 採石工場・工事場より約1軒半上流那珂川支流溜沼川右岸にあり。

